繪入正月揃

二

乙京
6
387

別置

5-3
3-3

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用

絵入

正月揃

二

神祇　山門
禪宗　独住所
念仏　山居
真言神院　淨土宗
法花宗　山伏

二

京.ヒ
6
387

別圖

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用

正月揃卷二

第一神祇の正月

そもそも神祇の正月を祝ひ社壇の作り物わ
らしく造作の狩りの序拵作備付膏
のうひの瓦屋茅屋お殿廻廊萱井垣瑞籬門
外の高居。茅ヶ崎戸八風閑板塀懸懸奥に
門の扉朱砂金青。緑青胡粉丹黄色彩の
具を調へ彩色しうえ。嚴徳神と祝ひ
の御供八種の菓九種の豆物斗餅小餅
菓風粉赤飯熟柿柹柚株橘禄の菓

帝國圖書館藏
大正 7. 2. 26 購求

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3
ガラス使用

百味の饮食を調。晩の秋もち清宮殿門典は
篭。翌日ハ八辰を選て大宮司神主猶元清
戸を開き。おのく散米を投榊く振ひまち。注
連をゝ幣帛と祭。祓を誓し殿内祓を百
度。注。ゆ八乙女巫禊を振鈴を神楽く
なれで唱し幣を打振ゆ禊の行尚ひ
ゆ号支手の日並かうて當日神の位ち初
めて数白く来ぬく。ち後を巳季八赤潔付の
祭礼の幸の法螺。卯月の神放生会の榊葉
迄火焼。第九焼除付の灯内焼意灯焼紙燭

蝋燭灯事の光豆夜の
る燃筈不浄を除く洗川贄取踏滴る
禿舎のお後。好宮の掃除。社皮れのく宿不
小祝直舎のいとひよ婚清酒をに汲かく
解女ゝ社人もわり。速鳥帽子わり鳥帽
子直衆大白ゝ妻来わぎ格も宮ゝ
ゝ紀治神爲ゝ行者八日うげようそよ子
をを乾ゝ拘ゝ。汝示ゆ。祈ゝけ
なくを伊勢太神宮い天神七代伊勢福伊勢
冊当一女地神の才一ゝて天下をおゝめの

九千四百二十八年の後の序代孫て人王十代
崇神天皇代宇高間の原より大和国笠縫
の里小盛の宮に遷る。其後垂仁天皇二十六年
己九月十七日伊勢国渡会郡の五十鈴河と
水大宮柱立る。新造宮八社大社小社
也。御神お雲乃大社小素盞嗚尊八人王
六代孝安天皇元年雲州より移て四月と
称人王十八世履中天皇四年十月十八日
今代大社小社に遷る。三男西乃文殿四月十八日
同六年三月廿五日市町賣買の盛

と祝ぐ。わるいを海川の猟師を守護する。
越前の国宇佐の大明神八人王十四代仲哀天
王なり。筑紫香椎の宮八十五代神宮皇后共
胡降伏の神女祈りて向しまし宇佐八幡宮
八人王十六代應神天王三十代欽明天王宇
蓮華峯の麓亀山の四方四角を下八王の橋
雲のうるいそのうらの秋の月まるまる金字八
札虚空より降下つて宣出給ふ様に揺れ奇
物ありとふいと向わるどふを法力ぎ嶽とも
蓮花山の嶺の頂に社壇を造りまつる

是。平武天皇神亀四年廣幡八幡大神宮也
わづかまるそのうち三百余歳を経て人王五
十六世清和天王九年行教和尚より宣
貞観元年八月廿三日山城石清水久世郡男山の
宮より移しまつる。岩清水一社なり。抵当八
幡頭天皇勅じて三千一百三十社の大神
宮中七百三十七社八神祇官より勅を受て
後二千三百九十五社より八十余ケ国国司の
くうなのうつく幣帛を奉る。門別より
廿二社幣帛役をうらを早水風旱憂なく

報の幣を祈とする。外二社は円石清水吉田祇園小野の四社は延喜式の神名帳に載る所式内の社しとなり。なほ三数さぐ後らぐらしを後朱雀院の宇長暦三乙八月外二社定めもつく後不増不減なり。ちなしば神を主民子をもらせもゆゆ石清水は使よハ源氏は人春日は使よハ菊氏なり。ほゆゆ菊菱家の人ゆゆ三乙七百余社の太神。七乙三百余社は小神。二千余森の神を祭神なれいと海あるゆゆ国家擁護の霊

ゆれで神と云ふの訳ゆゆ代々ゆゆ社家は正月祭をゆゆ

第二正月の主春

西の丸主は深のさんと海ゆゆ。行くゆ代ゆゆ雪水は。ゆゆ春の代ゆゆ。ゆゆ一月の春一月の春。ゆゆ。ゆゆ。ゆゆ

大納言中納言小納言中将宰相大弁小弁
二位三位中将少将四位。同朋。わらひ衆
侍素絹衣法冠法服緑のさうぞくの
ときぞせんぢんおきの衣。ちたちのさうぞく
かたぶとなる雲隠それ出仕。天下安全のかたれ
ひ中ぜうりとのぶ坊く院こかゆ。ちごわらん
並居くしめくれさう殿。ものざうに酒肴
もちんぬりざけなまぐづくはゆを調てのち
菓子けばりちぜんだいちんぬりちぐりいを
ぐら茶礼とうくうぐづくれさ猫んぐづと

ぐづくりくの当法とかてなひくくお世世
月代物の傷もありぬ。ちるひを礼盤ち
ぜりの法則をもし老傷もちるし。大般の大
系法仁義とかんくくちぜ傷元わりの異
一千余当の法ぜひくよりひ。水精黄茨唐
木の除数と押えんで。ぢ元ぢ〜に神咒と
ちの。ぢ上ぢ下の八ぢ子禁よ三ち。ち一社
の寒意代ぢ〜ち丹波代抽で諸国長人
とりとなしたなのづ〜万民安穏の表を
ひくくちそそあれ四月といふ月ちり

第二禅宗の天朧

新年頭の仏法まづ禅宗義林の正月法
山十刹又山天下の寺おちお住面住所
堂面をひらきて衣黄衣黄衣黄衣黄衣黄
当宿らく僧お法の衣を先書紀ざきしう
しや禅師法泳唱食。法衣の衣。法衣の衣。法衣
級袈。らくされ衣同袈。袈。袈。ら。がら。法
数生ざくちどさんかく衣鞋ちくらく
ちくらくしやくかくの仏殿の左右
をそろひ住お焼香三拝の後の仏前

を紙部警戒祝しおそらく方丈の賀礼
大原かのくく衣鉢間のぜんごにうくまり
機嫌と伺ひ礼お戒運。ふしくく敬して
後面仙おそらくくの菓子湯茶礼もれ
あり。清服の人数おのさ時い法雲とかざり
法官参を礼次第親矩あり朝面の
しあのまち調菜と元物まづ羊汁粥を煮
てのち粥の品くい汁る菜八雷和海松ふ
さ。ぐくくらまそぐ干覚の顔さんせう
あ人二の膳を桑の飯荒汁せうの屋紀豆腐

の魚おなじかさりいり千虎枝ろんごう
孤蓮第乃漬おわりしつり松蕈わさびを冷
汁三乃脇わり菜八納豆海雲漬菜ホわく
のへて後猪なれハ産配よまもを。俵嘗小番
ろう成乃べおるひそ四首産乃立魚一魚二
番四魚九人数とさうし徳の乃もは老俵小
俵小性乃一那厚肌とり種と魚くわりま
ゆもわり菜嘗九役人八獲ゆ成みぐさ水とる
魚ひしゆく菜しゆく天月菜碗とめくいて
湯成たぐもと魚小盃に魚くいくわげて

しらかる菜ゆハ菜掃ううぐ俵菜ゆの
先うゆちうんご揉うかさ雲の俵うる
足掃ゆ盃湯枝と添くか。菜ハ梅尾碗酬
ホ山嘗前ゆ後天狗苑宇治川と伊賀物
魚月山ゆホ乃乃名菜をわの菜つぐ
菜掃ちやうと蘆いしろ松義九乃べべ
ゆ二魚三魚乃先おうて日中放参
乃わいぐホ義絵九着俵ゆらをわり寺成
ちろゆ頑結ちんぐに屑成ひをひゆ先も
わり。海弥喝合も万ゆとゆげうく文ま

とりさんく梅よ題しく号よ作句を
をたぐらたりと毎月毎日寺家の三昧聖者
は動り法雲の太鼓うつ庫裏は打飯炊の
者ハ云物の義代おどろう云常迅速は月
日とやく。ちく〳〵まく秋まきまよけぐいあく
仏祥の冥魚よいあり河ハ寺家山門の祥
福あつ〳〵く方丈の月きく。ぶく繁
昌のまいちとあり御祖ちふるよかちり
二六時中あ用云事わ
時かくのぐく

穿三同独住所の嚴初
号老僧居所の事ハ小かよび同者ハ
主義とちり住比丘ハ同者とぐむ事
物〳〵ぬぐのよの屋ちれ矣白ち秀句と
ちたく先夜云〳〵。門法法春あのまり祝
晨とちぐ矣正月の物事ちくく武法
小豆粥ちはまいうぐう義林よかくん部ち
頌の女お己ご貪福よちくく云ちく〳〵
かあぐ〳〵一文まち文の出所ちくとも
おの号焼香礼毎同〳〵
今上皇帝

大徳寺の行幸の御所の御礼うんきん
ぐゝれ正月の末ぐれ二月の初うんぐ三月の
桃花長四月の仏そんじやう同く結夏の月
の端午菖蒲の日ゝ名六月の末ぐれ七夕
うらぐん九月の重陽菊の会十月の開炉同
く蓮華長十一月の臘八ぎゝ
ゝくゝ長ひけらさそく体堂の正月ハ
万ゝの不浄不滅の定法動りぐぜん解怠長
ゝ長ゝみぐ光布長七條紙衣袈裟を面引ぐり
かりゝゝそんりゝと長ゝ常ゝ面上りつ浄

よ四代けの御りの系れ御ゝらぐきふ雲桐雲会
りれりりりとさ面。菓ゝふゝゝいちゐ
ゝゝ。風情りゝの葉ハ膳味敬茶ゝ
一大事同縁れ修り慶り批判りか化ゝ
ゝ仏ゝの正月りぐかくれぐゝ

第四同舎下心居れ芳春

貴門釈迦如来ゝゝ六祖恵能浮師ゝ門
同源海ゝ支流ゝ仏法てくゝれゝ
書獲ゝ知識ゝへい迷ゝとゝゝんが者
りゝんざゝよか辻堂ゝ乃殿ゝ御て

越後ちりめん百方ちりめん絽小紋と
さらし氷めぶちちりめん乃さいあり簾
茶漉飯わけばすかさらり体とぞあるひい初ぶ
絽乃浴い被ぶりぶりぶりぶりぶりぶりぶ
乃浴わぐよおぶりふりけて法方えぶ
し。帯服乃さぶぶきとかふ乃なわ云
白いまさうけぶぶされぶ参稼参子ぶ師
家紋稼成要せぶ紋をあ簾
深とつとつよ夫事をうけて放参時
とまらてまぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶ

俗乃うろぶぶ切わ
紋つ乃下にかつふあり正月十六日ふいてハ
まぶ弾けさぶぶろとぶ中茶鞠松子
う枝助老弾盤竹蘭脇布り脇乃乃ぶ取
分わぶ乃紙ぶびようけ法一見れ紙ん
さん乃俗茶し不立文字れ別俗いぶぶ
云句とりぶぶ弁ぶ自己一雙乃俗い
物下ぶようけの果乃高ぶびぶ物
枝紙長と月白香ぶ水と汲ち紙木れ
枝紙打燒硬頭古面一ケれ生涼人名とれ

きく花よりはぐ〳〵さくれたりのいと深間
ど春ばめくさうおはけ是が花と海棠和
し。見る居り四月春い角ごてめ漢乃氷
ゆ乃形

寿文真玄律院乃歳暮

先客殿乃神中号大月不動三具是用紙花
雛ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵

衣いるゐ白く香炉ゆふさ。取掃仏殿なるせうもう。三あの浴長老は賀礼をくいるゐ賀千わざ物まぐらづ。墓荒。野元。も足洗礼おくいて浴湯盥と換さけいさん

をいたわむうくいゐ酌くゐ浴けく三反ひの

し庫裏餅参れらう移懸のの石垣

ぐくふりくの三宝護摩の檀よりて

ひうひい審ゆとむとびゆ氏海く親急

親法を吾をわもれ他とわとるくと当と

律僧ゐく百戒法の僧の国郡のか物長

久乃正月

廿六浄土宗の青田

元旦八時代ゐくどを南無行法仏門

ゐ仏殿の年法ゐふかぎわるくし晨粥

の撞鐘ゐるゐ。元旦の義氏さ海

したのくれど元日の礼者とまち雑煮と

もの盃のらくゐくまぐ如来仏壇の焼ゐ

開と祖師の餅ぐゐ法碑の念仏行のづ

世東方戸の初詣ゐるして師檀ゐ書

くんじゆれきいゐ弥いさくふ坂東坂西い

凡〻諸代ちごあて精舎あり檀文時
宗のかたハ相撲乃法義沢あるハ二条巳條
七条五〻嘩〻八乃法大小乃法式と成ちり
年ハ施一切同ちつぼ〻ハ仕ま番ハ国と
祈と十会乃経教ハと小揃れ色のみる
うち祈ハ有ものず紫宮ハ未逆とちち岐ハ
八寺都と拍ちぐちりめ〻ハ正月
乃国ハ紀をいふるる命ハ安量寿仏ハ
ハ拍ハ世界。うん〻ちり乃都ハ
うちちる祝世ちあれ五〻三正月

賀七法花宗乃義時
ハ延年心地と拍かたち未ちるれ拍ハ
元日ちあつぐりよさ〻ぶちものハ安拍
〻れんけ〻ちと。〻ま〻ち御祝乃ぐ
光ちる〻。三ケ日八ケ日一祝同者乃法華経
ハ拍ハ拍ハ〻ち〻ち〻と〻ちまち〻と
ちん。三宝祖師諸天善神。る内鎮護乃三
十番神。法来〻ち〻れ〻ハ〻あて講演しお
ち〻〻天地太平と祈ちけ。ち法ハ文殊ハ
妙ハと。文殊ハ菩人結授。ぐ〻ハ色者

うしのこくこうみ。解説ハ同縁起ニ申
ふ説書写ハようこうせ一部八巻二十八品。文
字ハ数八六万九千三百八十四字。帰り時ハ数ハ一字
よ減し。廣く説ハ言量尽ハ遍なり中
略方便品量仏力番門ハ三品雷音ハ別して
利益物し。趣しくあり水々是好良薬也
釈し。毒服し。不老不死ハ経力現世安穏
生善所ハ名文堂をとうんぐもし。
あびくい仏法僧鳥
方八山伏ハ三朝

西面仏壇ハ神ハ奥ハ曼荼羅ハ三具足
と人体香ハ烟をあびさ宮ハ宝螺鏡ハ
磬さんぐんの数ハ法人ハ勝を見ハ。拝
脇独脇。金剛盤。やとい閑伽ハ水花なるべ
ものハ役ハ切者ハ。閑閑結ぶ
ものハ役ハ切者ハ。閑閑結ぶ
ものハ役ハ切者ハ。閑閑結ぶ

きりんぢたうこくに威儀を飛びきいる
かたじけ雲掌者を集會し。佛教同門なり
もの云法仏の教吹流色しるし。授ける者
とわざしくはぐくに勅奏ける者ハ支中秋
天象ぐさ三十三変ととげ飛躍さ発
言ふ。四ふ仏法ぐけ四民事人村と
天王の宇天暦二年戊申三月十八日八坂ハ
法とゆうを点せ浄瑠璃貴ゆうを天下に
ひろめ。ふかりかがれとくんで花の
ぐ先ぐ天長地久とわまれ初明

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3
ガラス使用

もりどやふくぞ　はゆき
道の紀よ　四

歓せんとてぐうこゆめ。お賀優院
二ゐ釈王ゐ寛ハ海水尾院の文。三井
寺開山智徳大師より三十六代の法流なり。
寛文ゑし己年十九歳七月廿六日役人優婆
塞の形儀をうけ。大峯山より入り。貞享ゑ
よりこく廿三ゑよりぶ。今ゑの秋七月廿
八日二ゐ釈王遺跡ハ海ゐ院の文。今十八歳よ
りく開山智徳大師より三十六代なり。今

まうと天ゑの宝祚は天長地久の軍家武
運長久治世繁栄の御祈念かしこび。天下泰
平国人安全のれ形はあり大家ゑよ入らせ
ゆふ霊社のよ撃。仏寺の護摩。霊區は詩賦
名山の詠歌。険難と雲。山川とわたり。歴
歴と四ゐ紀と。茅葉よ繁て高代ゆ
紀机よかんで法よりゆふ近里を国の山
伏道尚山未流の輩ゑ物れ依なり頭巾袈
掛笈鉄斧とのうゑめ花蘿なかかと。法
印法平国くあくちはれ人物山を崩し
ぬ。

勝ゑ獅子の皮をさげ兵士の熊乃皮ハ頬髭
ながくのばし。立ものゝ姿さゆゑ八ゆしきる者
ハ人ゑ依二十人宛なり。まさ雨ゝ乃ゑ弓者
六十人ゑ供ゑ人宛ゑ長刀ゑ成打也けり
三井寺別所前ゑ一番ゑ供ゑ大僧正
二番伽耶院権僧正三番金剛王院大僧都とゝ
ゝ。ゑ。ゑ。ゑ

同宗伝法流。次ハ京大覚流。柳模玉勝坊。江戸
浄蓮流。江戸浄眼院。武蔵紀善堂。京手勝院
ゑ戸人女間坊。同所文殊坊。同所雲蔵院。同所右近
九州ゑ光坊。陽光坊。京御坊。横手勝光坊。奥
及高野流むさし玉林院。房州正善流。ゑ乃
南湯流。武蔵流。三井寺玉性流。三光流。ゑ善院
小林院。実成流。ゑ乃流。智場流。三蔵坊。万徳流
玉泉院。押ハ雑色流。ゑ乃列貝流。
ひむろなわ。手白乃流。体ゑ乃ハ。ゑ乃
ハ宇治三宝。ゑくて九日ハ。遠国ゑれ乃流。

京
6
387

八木。出口。山上。天乃川。小篠。若年。葛八郎文
彩文。三田八文。和泉山。堺大坂角ろく九月十八日
ゆ寄へ角ろくふ

正月揃巻二終

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3
ガラス使用

乙
京
6
387

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用